

西表島「ウブンドルのヤエヤマヤシ群落」の現況調査

2021年1月

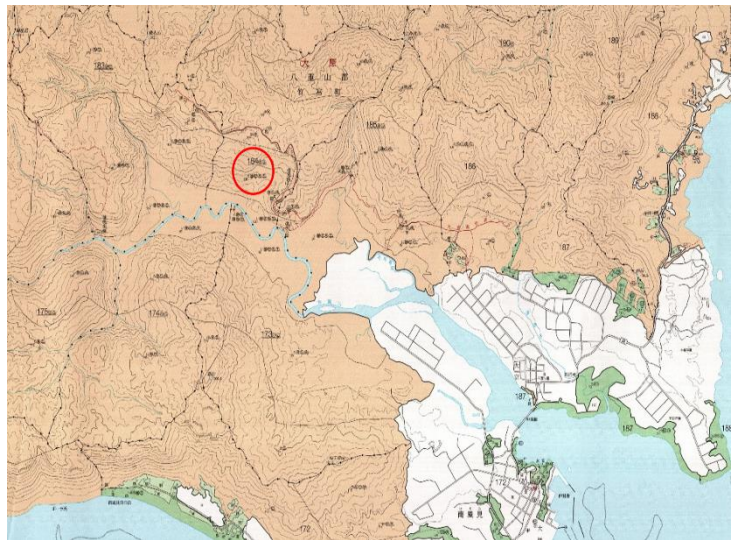
西表森林生態系保全センター

1 はじめに

西表島の仲間川中流に生育するウブンドルのヤエヤマヤシ群落は、西表島の星立及び石垣島の米原のヤエヤマヤシ群落とともに国指定の天然記念物に指定されている。また、ヤエヤマヤシは、西表島等に生育する1属1種の固有種とされている。

西表島のウブンドルのヤエヤマヤシ群落は、近年常態化する大型台風の襲来や地球温暖化、異常気象等の自然環境の変化が及ぼす影響が懸念されたため、2009年度に現況調査が実施された。その調査からおよそ10年が経過し、その後のヤエヤマヤシの生育状況の確認やその保全対策に資するため、再び現況調査を実施したものである。

今回の調査に際しては、群落に影響が及ばないよう細心の注意と、あらかじめ関係機関である沖縄森林管理署、沖縄県及び竹富町の教育委員会等に事前連絡を行い実施した。



図－1 位置図

2 所在地

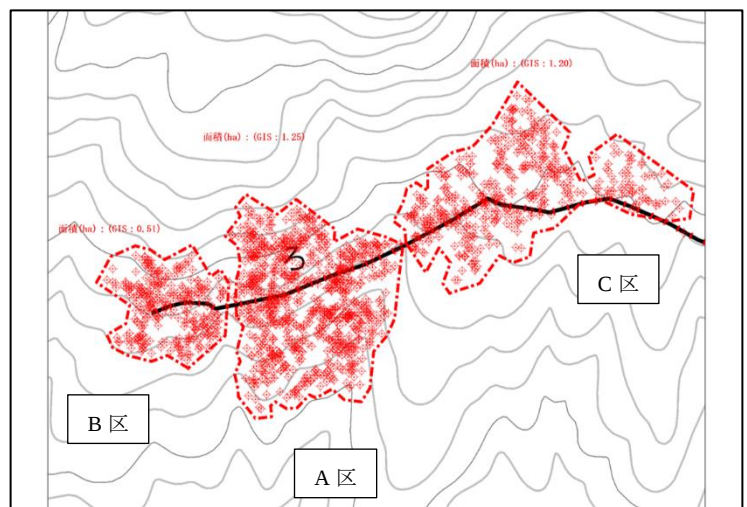
沖縄県八重山郡竹富町字南風見国有林 184ろ林小班内

3 調査方法

ア 調査区域

前回の区域設定に倣い、ヤエヤマヤシが群生している林分を一つの集団とし、三つの群生地 of ヤエヤマヤシに限定して毎木調査を実施した。また、個々の群生地は、各調査木の位置をGPSにより地図上に落とし、その外周が結ぶ線を調査面積とした。

区域図は右のとおりである。



図－2 調査区域図

イ 測定対象及び測定方法

ヤエヤマヤシの毎木調査については、木質部の樹皮が胸高部位まで剥離している個体を対象に、胸高直径（地上高 1.2m 部位）及び樹高（葉を除いた木質部の高さ）を測定した（別添「ヤエヤマヤシの測定方法」写真－1 参照）。

胸高直径の測定については直径巻尺を使用し、個体識別については生分解性ウッドファイバーテープを使用して表示した。

樹高の測定については高さに応じて 10 m 測竿及びバーテックスⅢを使用し、また、近接し目測による樹高比較が可能な一部の個体については目測によった。

ウ 調査実施期間

調査実施日は、2020 年 10 月 13 日、10 月 14 日及び 12 月 1 日の 3 日間で、延べ 21 人で実施した。

4 調査結果

ア 調査区域

三つの群生地は、A ブロック 1.25ha（1.06ha）、B ブロック 0.51ha（0.18ha）、C ブロック 1.20ha（0.26ha）の計 2.96ha（1.50ha）である。（※（）は前回調査）
いずれの区においても拡大傾向がみられた。

イ 本数

測定本数は 1,636 本で、前回の樹高のみ測定したもの（胸高は測定不能）を合わせた 1,769 本よりは少ないが、胸高の調査と樹高を調査したもので比較すれば B 区と C 区で大幅に増加している。今回の調査では、胸高が測定できない個体は調査対象から除外しているので、それを考慮すれば総数で若干の増加傾向にあると推測される。

表－1 (2020 調査)

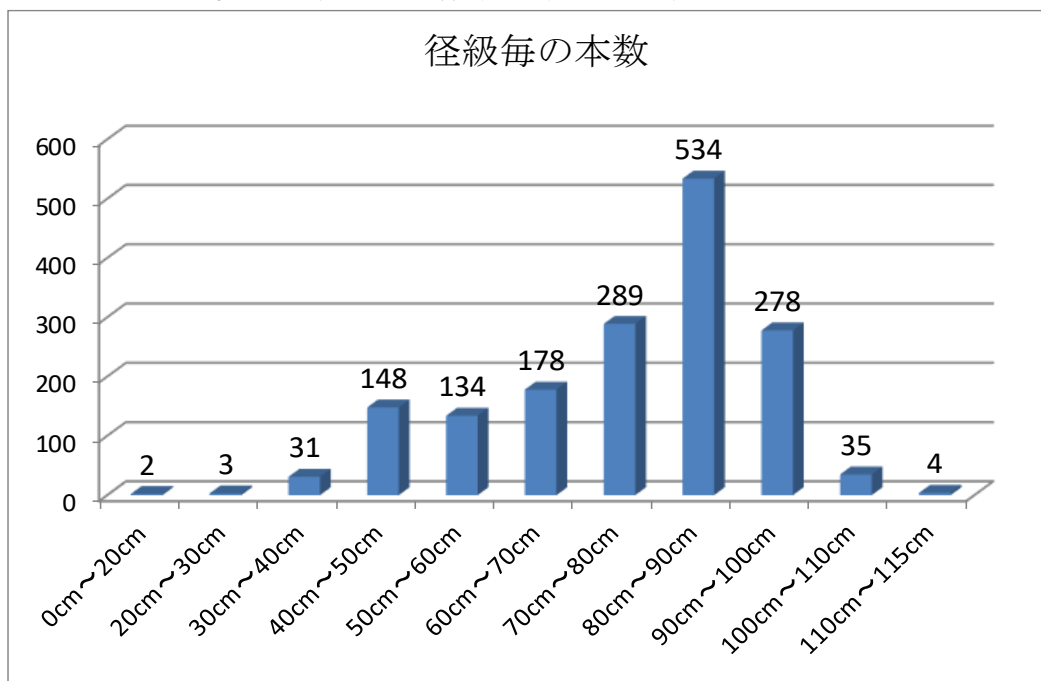
ブロック	胸高部と樹高を測定		計
A	885 本		885 本(1.25ha)
B	343 本		343 本(0.51ha)
C	454 本		454 本(1.20ha)
計	1,636 本		1,636 本(2.96ha)

(2009 調査)

ブロック	胸高部と樹高を測定	樹高のみ測定	計
A	915 本	349 本	1,264 本(1.06ha)
B	183 本	82 本	265 本(0.18ha)
C	148 本	92 本	240 本(0.26ha)
計	1,246 本	523 本	1,769 本(1.50ha)

ウ 胸高部の幹周り

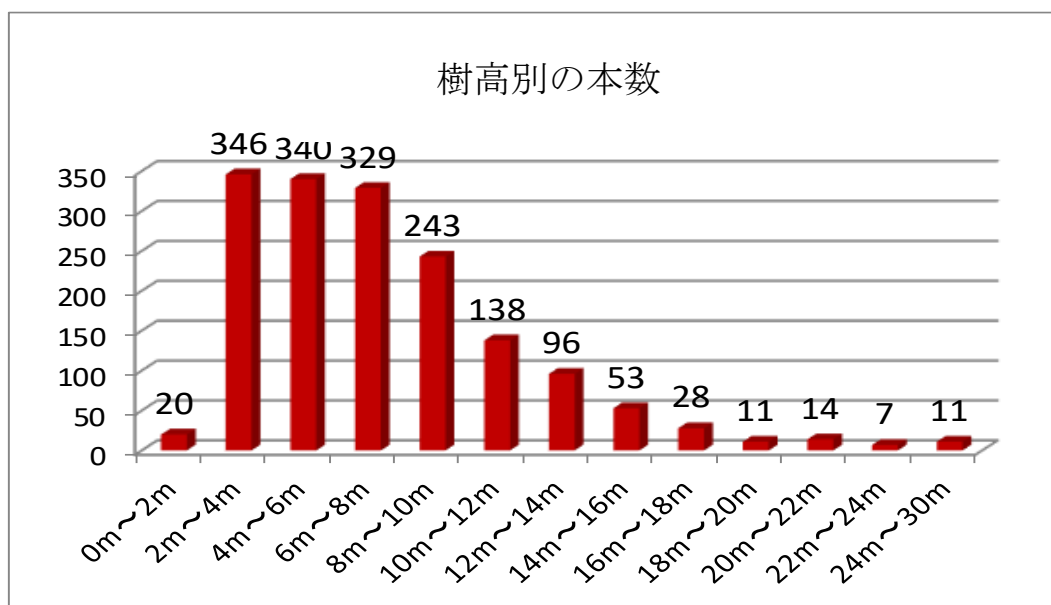
測定した 1,636 本の幹周りの幅は 19.0cm 以上から 115.0cm 以下、平均は 76.0cm であり、特に、幹周りの多い階層は、80.1cm 以上 90cm 以下の 534 本で調査木全体の 33%であった。前回調査も同階層が最も多く調査木全体の 30%であった。



グラフー 1

エ 樹高

調査した 1,636 本の樹高は 1.5m以上から 26.8m以下で、平均は 7.5mであった。最も多い階層は 2.0m 以上 4.0m以下で 346 本であり、以降樹高が 2m高くなる毎に本数は減少傾向を示している。また、10.0m 以下では 1,278 本で調査木全体の 78%を占めている。



グラフー 2

オ 稚樹の発生状況

ヤエヤマヤシの群落内にはヤエヤマヤシの稚樹が散見される。特にヤエヤマヤシの地際にはまとまって発芽している。ある程度の次世代のヤエヤマヤシは育っている。

カ ヤエヤマヤシ以外の構成樹種

当群落内のヤエヤマヤシ以外の樹種について、前回調査（別表リスト）にある樹種は概ね確認できた。しかし、木本、草本ともに種の同定ができないものもわずかながらあった。（別表「2009年ウブンドルのヤエヤマヤシ群落内植物リスト」参照）

5 まとめ

今回の調査から、南風見国有林 184 ろ林小班のヤエヤマヤシが群生している区域面積は 2.96ha であり、前回調査の 1.50ha に対し拡大している。区域が現地に表示されていないため単純に比較はできないが、当時の写真等と比べても区域が広がっているのは間違いないものと思われる。本数は 1,636 本で前回の 1,246 本から増加している。樹高については、20m以上の湾曲している個体もあり直接計測できないため、測定器による推測によるが、最高で 26.8m という数値を得た。胸高部の幹周りの最高は 115.0cm で直径に換算して 36.6 cmとなる。平均樹高は 7.5m、平均幹周りは 76.0cm（直径 24.2 cm）であった。

全体的には、この 10 年間で倒木や幹折れ枯損等が若干見られるが、ヤエヤマヤシ群落に影響を及ぼす要因は見受けられない。

※参考（以下、西表島のヤエヤマヤシ群生地での調査データ）

2009ウブンドルのヤエヤマヤシ

総 本 数	1,246 本
平均 胸 高 径	22.1 cm
最大 胸 高 径	32.5 cm
最小 胸 高 径	8.6 cm
平均 樹 高	6.7 m
最大 樹 高	22.8 m
最小 樹 高	1.8 m

2013星立のヤエヤマヤシ

総 本 数	761 本
平均 胸 高 径	19.5 cm
最大 胸 高 径	32.1 cm
最小 胸 高 径	9.0 cm
平均 樹 高	5.2 m
最大 樹 高	15.1 m
最小 樹 高	1.5 m

2020ウブンドルのヤエヤマヤシ

総 本 数	1,636 本
平均 胸 高 径	24.2 cm
最大 胸 高 径	36.6 cm
最小 胸 高 径	6.1 cm
平均 樹 高	7.5 m
最大 樹 高	26.8 m
最小 樹 高	1.5 m

2009 年ウブンドルのヤエヤマヤシ群落内植物リスト (※2009 調査報告書から)

NO	植 物 名	科 名	草・木	林分構成	出現度	RD 情報
1	アオバノキ	ハイノキ科	木本	低木層	+	
2	アカギ	トウダイグサ科	木本	高木層	+++	
3	アカミズキ	アカネ科	木本	亜高木層	+	
4	アカメイヌビワ	クワ科	木本	亜高木層	++	
5	アカメガシワ	トウダイグサ科	木本	亜高木層	++	
6	アワダン	ミカン科	木本	低木層	++	
7	ウラジロアカメガシワ	トウダイグサ科	木本	亜高木層	+	
8	ウラジロエノキ	ニレ科	木本	高木層	+	
9	オオシイバモチ	モチノキ科	木本	亜高木層	+	
10	オオニンジンボク	クマツヅラ科	木本	高木層	+	絶滅危惧種 I -A
11	オオバイヌビワ	クワ科	木本	亜高木層	++	
12	オオバギ	トウダイグサ科	木本	亜高木層	++	
13	オオバルリミノキ	アカネ科	木本	低木層	+	
14	オキナワウラジロガシ	ブナ科	木本	高木層	+	
15	カキバカンコノキ	トウダイグサ科	木本	亜高木層	+	
16	ガジュマル	クワ科	木本	高木層	+	
17	カラスキバサンキライ	ユリ科	木本	つる植物	++	
18	キールンカンコノキ	トウダイグサ科	木本	高木層	+	
19	ギランイヌビワ	クワ科	木本	高木層	+	
20	コミノクロツグ	ヤシ科	木本	亜高木層	+++	
21	コンロンカ	アカネ科	木本	つる植物	++	
22	サツマサンキライ	ユリ科	木本	つる植物	+	
23	シシアクチ	ヤブコウジ科	木本	低木層	+	
24	シマイズセンリョウ	ヤブコウジ科	木本	低木層	+	
25	ショウベンノキ	ミツバウツギ科	木本	低木層	+++	
26	ショウロウクサギ	クマツヅラ科	木本	亜高木層	+	
27	ソメモノイモ	ヤマノイモ科	木本	つる植物	+	
28	タイワンウオクサギ	クマツヅラ科	木本	亜高木層	+	
29	タカサゴシラタマ	マタタビ科	木本	低木層	+	
30	タブノキ	クスノキ科	木本	亜高木層	++	
31	ツルアダン	タコノキ科	木本	つる植物	+++	
32	トウトルモドキ	トウトルモドキ科	木本	つる植物	+	
33	ハゼノキ	ウルシ科	木本	亜高木層	+	
34	ハブカズラ	サトイモ科	木本	つる植物	+++	
35	ハマイヌビワ	クワ科	木本	亜高木層	+	
36	フウトウカズラ	コショウ科	木本	つる植物	+++	
37	フカノキ	ウコギ科	木本	亜高木層	++	
38	フクギ	テリハボク科	木本	亜高木層	+	
39	ホソバムクイヌビワ	クワ科	木本	高木層	++	
40	ボチョウジ	アカネ科	木本	低木層	++	
41	マルバルリミノキ	アカネ科	木本	低木層	++	
42	マルヤマカンコノキ	トウダイグサ科	木本	亜高木層	+	
43	モクタチバナ	ヤブコウジ科	木本	低木層	++	
44	モダマ	マメ科	木本	つる植物	+	絶滅危惧種 I -A
45	ヤンバルアカメガシワ	トウダイグサ科	木本	亜高木層	++	
46	ヤンバルアワブキ	アワブキ科	木本	低木層	+	
47	リュウキュウガキ	カキノキ科	木本	高木層	+++	
48	アリモリソウ	キツネノマゴ科	草本	下層植生	++	
49	クワズイモ	サトイモ科	草本	下層植生	+++	
50	ナガバインナモリ	アカネ科	草本	下層植生	++	
51	オオヘツカシダ	ツルキジノオ科	シダ	下層植生	+++	
52	クロヘゴ	ヘゴ科	シダ	下層植生	++	
53	ナナバケシダ	オシダ科	シダ	下層植生	+++	
54	ヒリュウシダ	シシガシラ科	シダ	下層植生	++	
55	ホソバリユウビンタイ	リュウビンタイ科	シダ	下層植生	++	
56	ヤエヤマオオタニワタリ	チャセンシダ科	シダ	下層植生	+++	

参考資料

ヤエヤマヤシについて

- 1 和 名 ヤエヤマヤシ
- 2 学 名 *Satakentia liukuensis* .
- 3 科及び属 ヤシ科 ヤエヤマヤシ属
- 4 特 徴 高木、通直で最大 20m 以上に生育する。
- 5 法指定等

1961年6月15日 琉球政府はウブンドルのヤエヤマヤシ群落として天然記念物指定

1972年5月15日 本土復帰に伴い国指定天然記念物、国立公園第2種特別地域に指定

1991年3月28日 西表島森林生態系保護地域保存地区に指定

2007年8月 1日 西表国立公園から西表石垣国立公園に改称

(※2009 調査報告書から引用)



写真－1 全景 (2020.10 撮影)



写真－2 林況 (2020.10 撮影)

ヤエヤマヤシの測定方法

